『2016 年度「学びの実態調査」の集計レポート』の訂正について

平成 29 年 6 月 1 日
静岡大学 IR 室

概要

平成 29 年 5 月 8 日から公式ウェブサイト掲載の『2016 年度「学びの実態調査」の集計レポート』で使用している各学部のアンケート結果の比較を示すグラフについて、学部 1 年生および 2・3 年生の集計結果の学部名とデータの並びが異なって表記されていました。

お詫びして訂正するとともに、修正版をアップロードしておりますので、お知らせいたします。

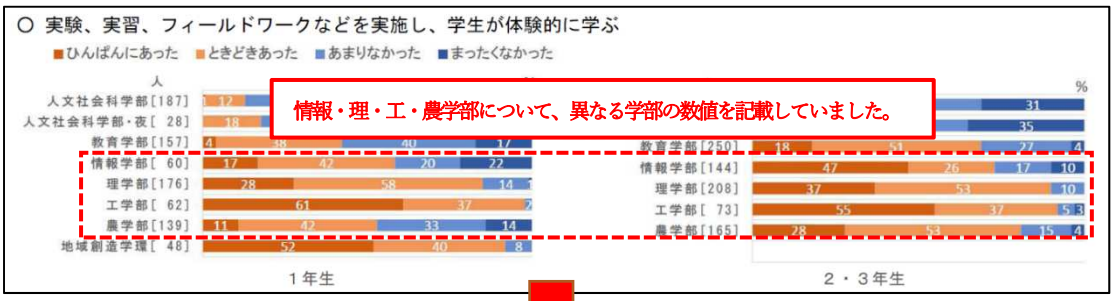
誤りのあった箇所

・2016 年度「学びの実態調査」の集計レポート（P1 から P5 までの全てのグラフ）

情報学部に理学部の値、理学部に工学部の値、工学部に農学部の値、農学部に情報学部の値を表記していました。

誤りのあった箇所の一例

誤：



正：

誤り発生の原因

Excel でのグラフ作成時のデータの貼り付けミスによる学部名称とデータの並び順の不一致（ヒューマンエラー）

再発防止策

・作成した図や集計結果について、クロスチェックを行う（集計前のローデータから再度集計する）。
・データの並び順について、ミスの少ない方法を優先して作図を行う（コード順）。
・学内限定公開後、IR 室員から担当部局等の教員に展開し、実態とかけ離れた数値になっていないか、チェックする。
・データ作成→チェック→公開までについて、充分な期間を設定する。

以上

2016 年度「学びの実態調査」の集計レポート

在学生の皆様へ

2017 年 4 月　静岡大学 IR 室

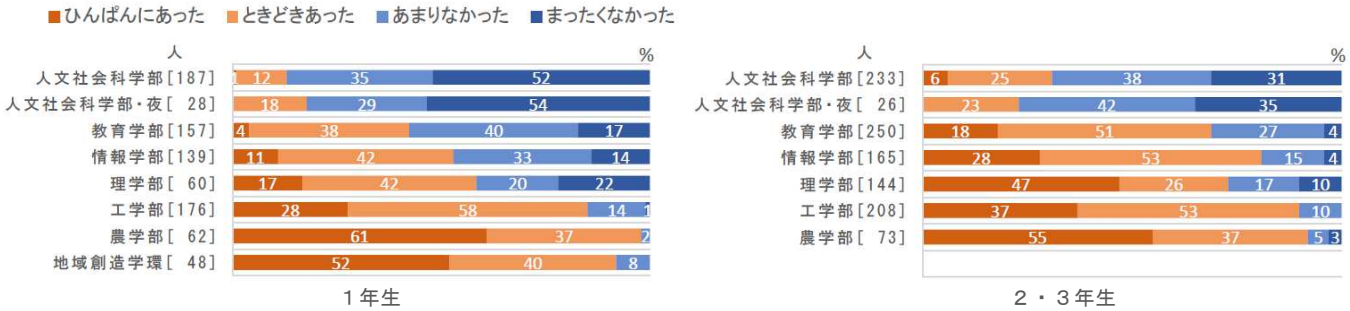
2016 年 10 月 13 日～12 月 8 日に学務情報システム WEB アンケートで実施しました「学びの実態調査」について、ご協力をいただきありがとうございました。以下の通り、特徴的な傾向が見える項目を中心に、集計結果の概略をご報告いたします。

・本レポートの着目点も含め、今回得られた集計全体から今後大学としての課題、学部としての課題を精査し、重点テーマの策定及び具体的な取り組みを進めて行く予定です。
・学年別回答率は学部 1 年 35.4%、２年 23.1%、３年 21.6%、４年 13.8%、大学院 18.2%でした。
・回答者から無作為抽選で 50 名を選び、2017 年 1 月に当選者へのメール連絡と図書カードの配布を行いました。
・全質問項目の集計グラフは、IR 室 WEB サイトの学内限定ページで公開予定です。
（IR 室 WEB サイトは 2017 年 4 月現在準備中です。）

Ⅰ　学部・学年比較のレポート

〔授業での経験〕

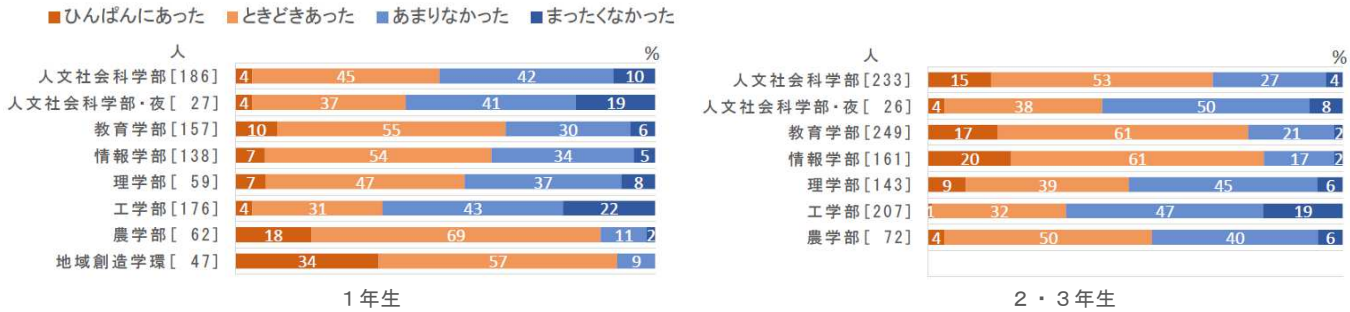
○ 実験、実習、フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ



１年生　　２・３年生

・各学年とも人文社会科学部が低く、実験系科目が多い理系学部が高くなっています。
・農学部、地域創造学環ではフィールドワーク等が頻繁に行われていることが窺えます。

○ 学生が自分の考えや研究を発表する

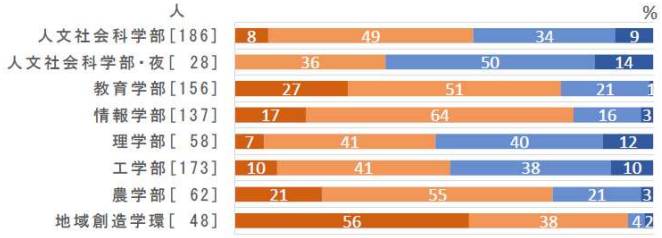


１年生　　２・３年生

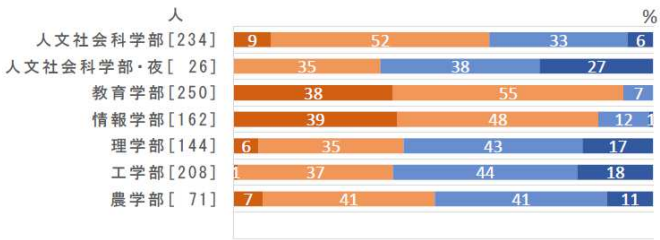
・授業内で自分の考えや研究を発表する機会は、同じ学部でも学年により頻度が大きく変化しています。
・教育学部、情報学部、農学部、地域創造学環では比較的頻度が高く、工学部では頻度が低いことが窺えます。

○ 授業中に学生同士が議論する

■ひんぱんにあった　■ときどきあった　■あまりなかった　■まったくなかった



１年生



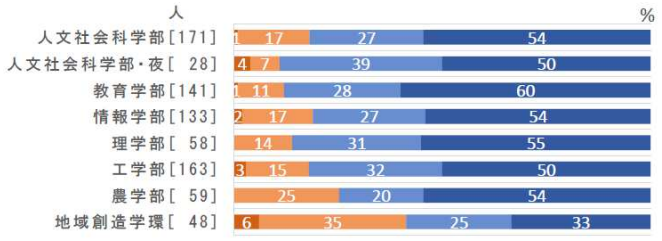
２・３年生

・学生同士の議論は、特に教育学部、情報学部の各学年、及び農学部、地域創造学環の１年生の授業で頻繁に行われていることが窺えます。

〔学習の経験〕

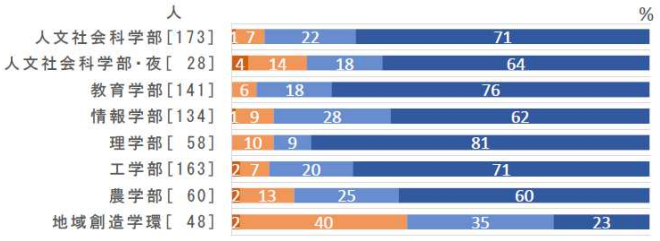
■ひんぱんにあった ■ときどきあった ■あまりなかった ■まったくなかった

○ 教職員に学習に関する相談をしたり、学内の学習支援室を利用したりした



１年生

○ 大学の教職員に将来のキャリアの相談をした



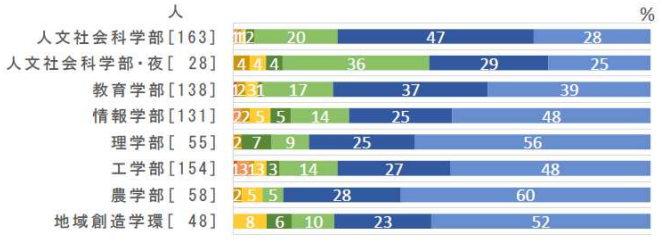
１年生

・地域創造学環では学習やキャリアについて教職員に相談する機会が多いことが窺えます。

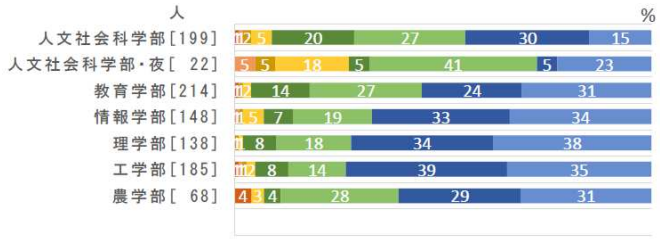
〔一週間の活動時間〕

○ 授業や実験に出る

■全然ない ■1時間未満 ■1～2時間 ■3～5時間 ■6～10時間 ■11～15時間 ■16～20時間 ■20時間以上



１年生

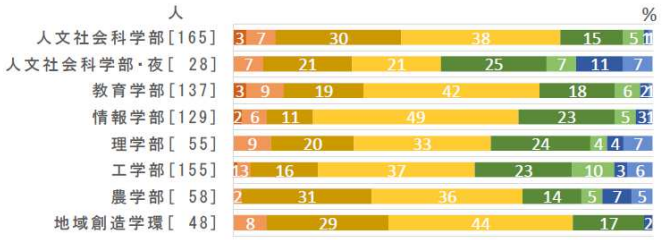


２・３年生

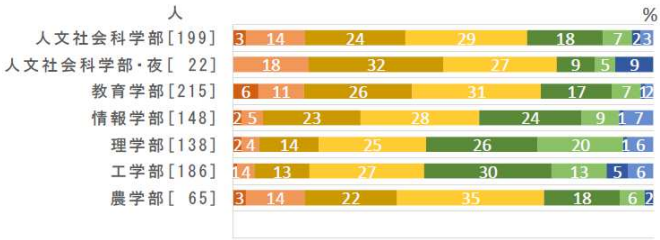
・上級生になると全体的に授業や実験に出る時間が減る傾向がありますが、特に人文社会科学部、教育学部、農学部で大きく変化していることが窺えます。

○ 授業時間外に、授業課題や準備学習、復習をする

■全然ない ■1時間未満 ■1～2時間 ■3～5時間 ■6～10時間 ■11～15時間 ■16～20時間 ■20時間以上



１年生



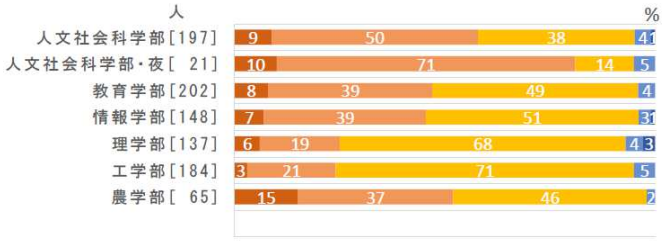
２・３年生

・予習復習等に掛ける時間は、特に理学部、工学部において、上級生になると時間が増える傾向が窺えます。

〔入学後の能力や知識の変化〕

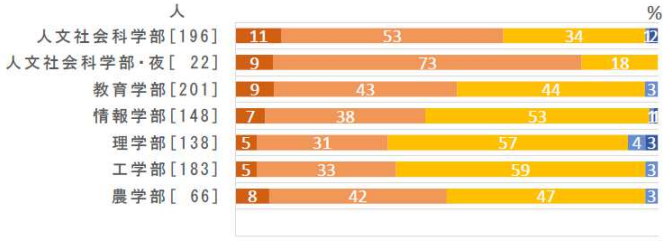
■大きく増えた ■増えた ■変化なし ■減った ■大きく減った

○ 地域社会が直面する問題を理解する能力



２・３年生

○ 国民が直面する問題を理解する能力

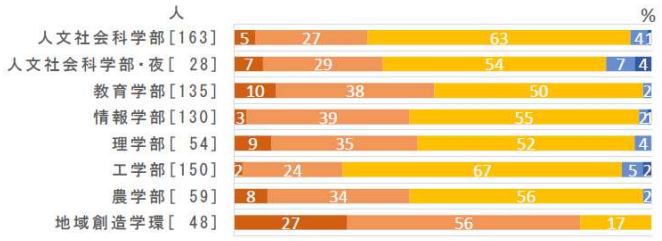


２・３年生

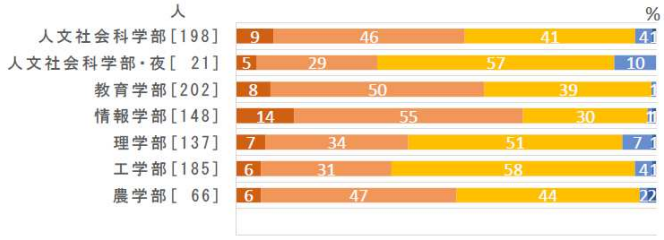
・「地域社会が直面する問題」、「国民が直面する問題」に対する理解については、特に人文社会科学部（夜）の上級生において増えたと感じる学生が多いことが窺えます。

○ プレゼンテーションの能力

■大きく増えた ■増えた ■変化なし ■減った ■大きく減った



１年生

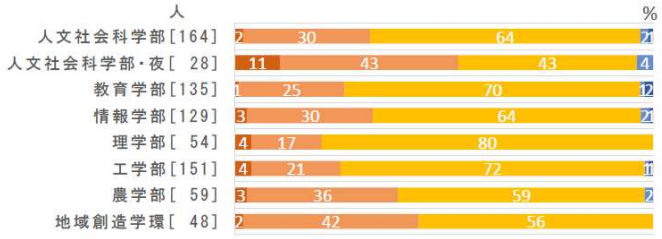


２・３年生

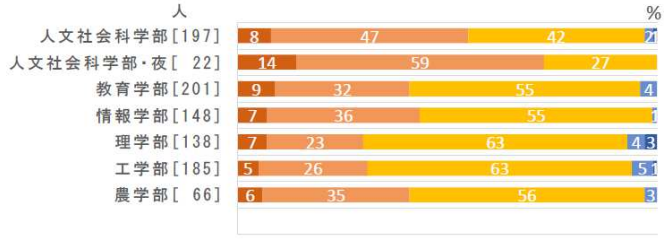
・プレゼンテーションの能力は、１年生は地域創造学環、上級生は教育学部、情報学部で多く身についたと感じる学生が多いことが窺えます。

○ グローバルな問題の理解

■大きく増えた ■増えた ■変化なし ■減った ■大きく減った



１年生



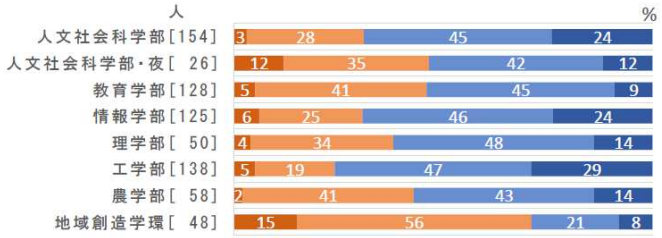
２・３年生

・グローバルな問題の理解については、人文社会科学部の上級生で特に身についたと感じる学生が多いことが窺えます。

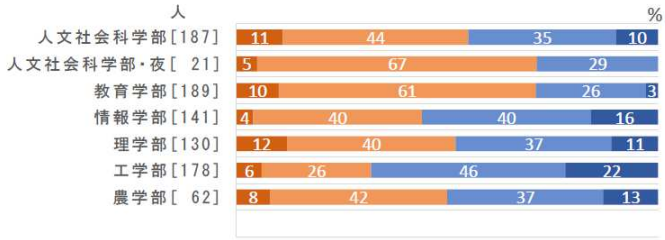
〔入学してからうまくいった事柄〕

○ 大学教員と顔見知りになる

■とてもうまくいった ■いくらかうまくいった ■あまりうまくいかなかった ■まったくうまくいかなかった



１年生



２・３年生

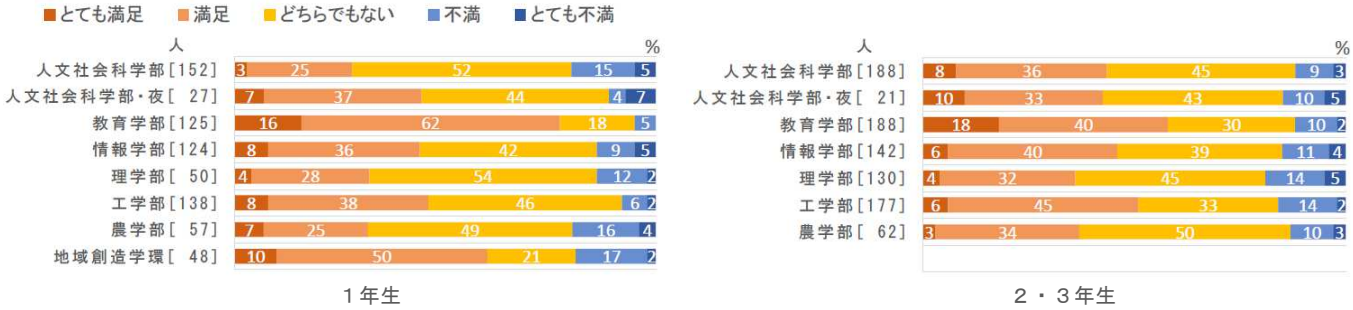
・どの学部でも上級生になる程、教員と顔見知りになることが多いことが窺えます。
・特に人文社会科学部（夜）、教育学部の上級生、地域創造学環の１年生で割合が多く、工学部で割合が低い傾向が窺えます。

〔教育内容・環境の満足度〕

○ １年生はフレッシュマンセミナーや基礎ゼミ、２・３年生はゼミ（演習）などの教育内容

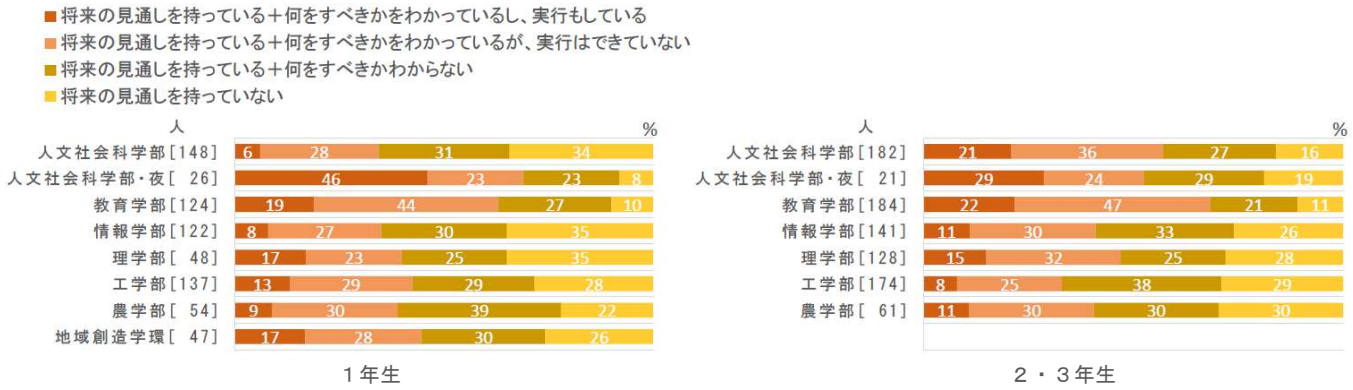
・２・３年生のゼミなどの教育内容では、人文社会科学部（昼）の満足度が高く、人文社会科学部（夜）の満足度が低くなっています。

○ 将来の仕事と授業内容の結びつき



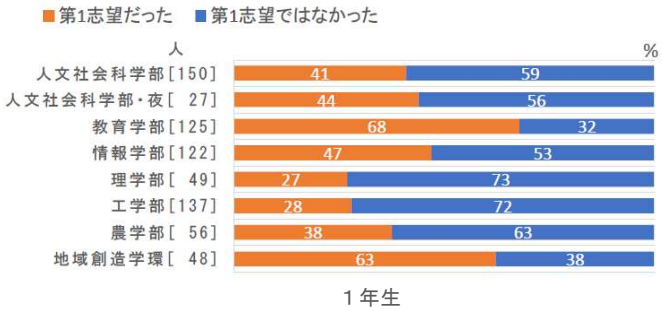
・将来の仕事と授業内容の結びつきについては、各学年とも教育学部の満足度が高く、理学部、農学部の満足度が低い傾向が窺えます。

〔将来の見通し〕



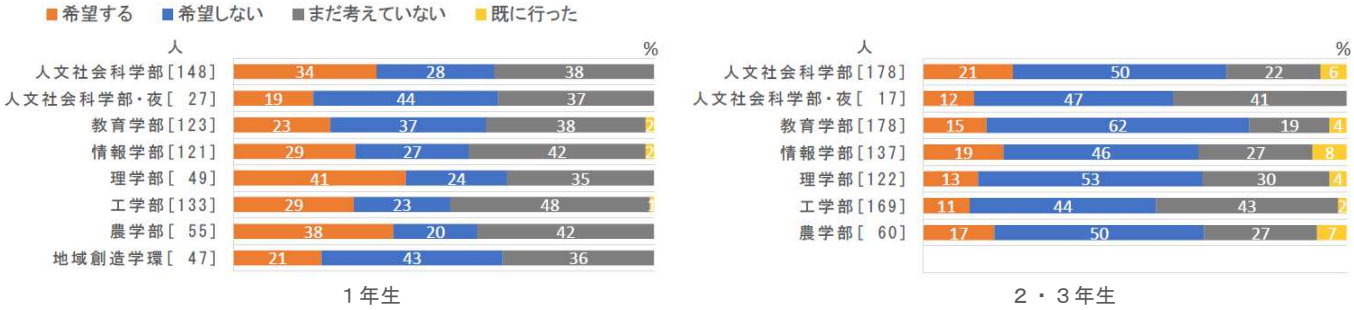
・将来の見通しについては、特に上級生において教育学部で明確、工学部で不明確と感じる学生が多いことが窺えます。
・人文社会科学部（昼）においては、上級生になって見通しが明確になる学生が大きく増えています。

〔本学の志望順位〕



・受験時に本学を第１志望とした学生は、教育学部と地域創造学環で多く、理学部と工学部で少ない傾向が窺えます。

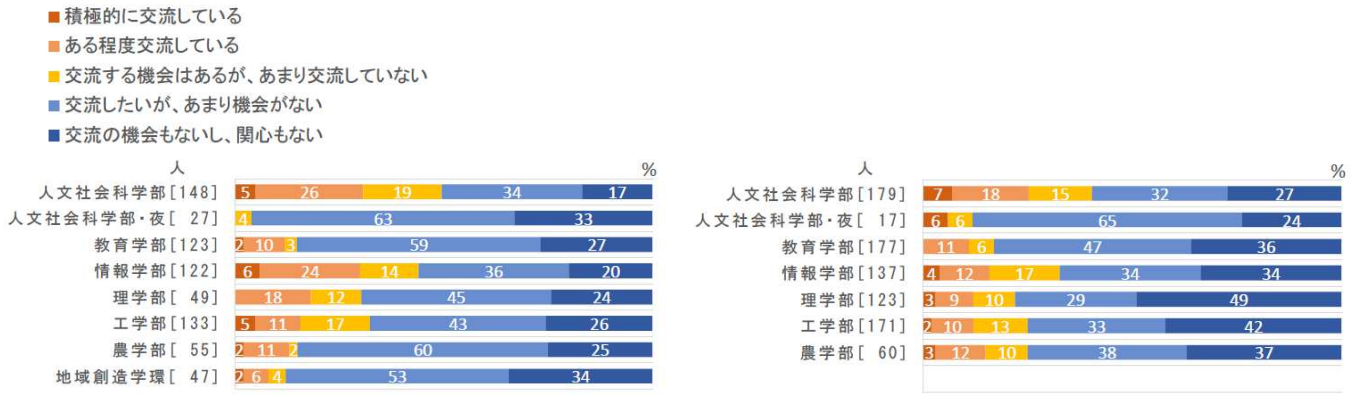
〔在学期間中の海外研修や留学希望〕



１年生　　２・３年生

・在学期間中海外研修や留学希望について、１年生では理学部と農学部に希望者が多い傾向が窺えます。
・どの学部においても、上級生になると希望割合が減少しています。

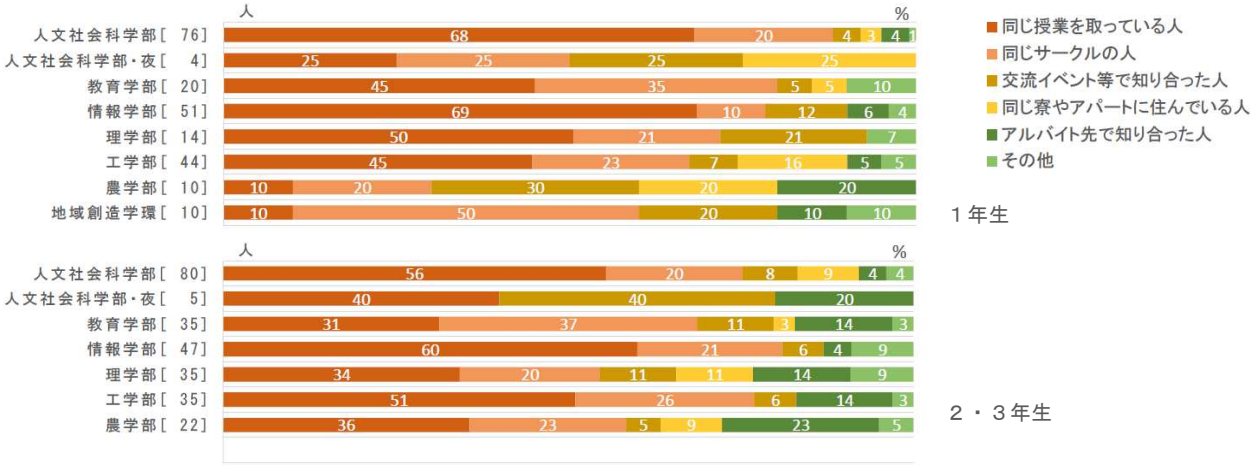
〔本学の留学生との交流〕



１年生　　２・３年生

・人文社会科学部（昼）、情報学部では「交流している」又は「交流の機会はある」と答えた学生が多く見られます。
・ほとんどの学部において、上級生になると「関心がない」と答えた学生が増える傾向が窺えます。

〔交流している留学生の詳細〕



１年生

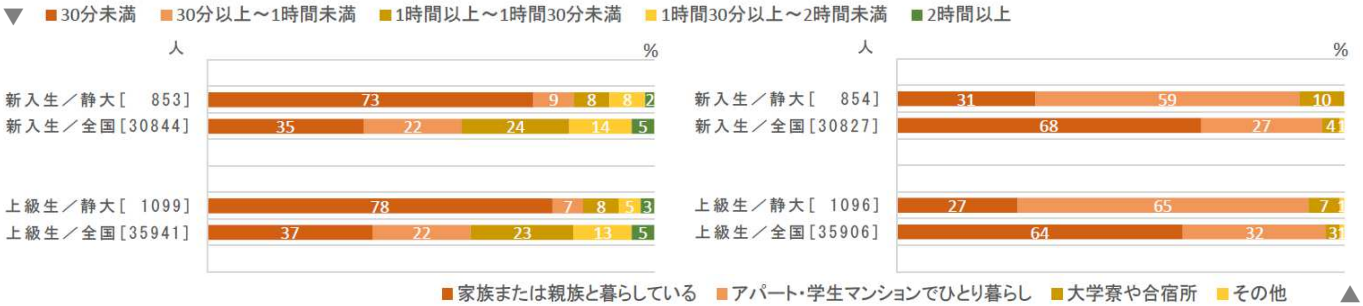
２・３年生

・留学生との交流が多い人文社会科学部（昼）と情報学部について、特に同じ授業を取っている留学生との交流が多い傾向が窺えます。

Ⅱ　全国比較のレポート

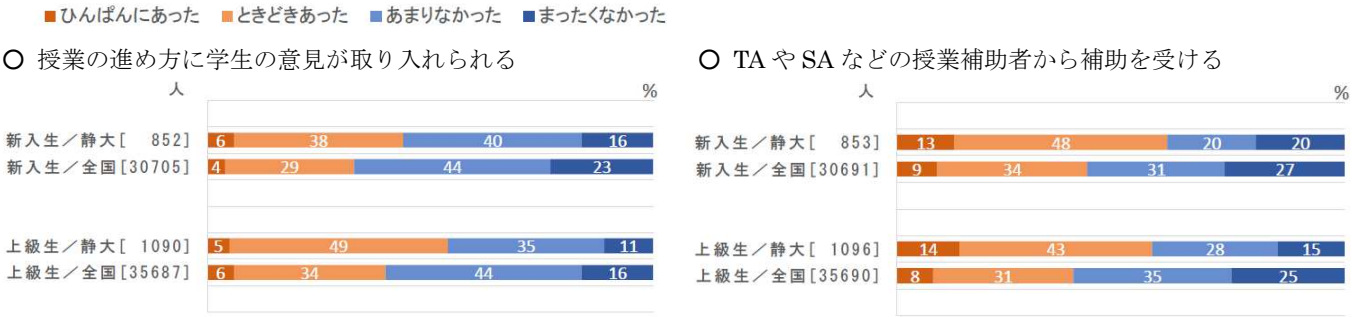
※全国のデータは、大学 IR コンソーシアムの WEB サイト〔https://iris.irnw.jp/〕で公開されている 2015 年度の調査結果を利用しています。静岡大学の上級生は、学部２～３年生の合算値を利用しています。

〔片道の通学時間・居住形態〕



・本学は全国と比べて下宿生の割合が非常に多い傾向が窺えます。
・下宿生の比率が多いこともあり、片道の通学時間も７割以上が３０分未満と回答しています。

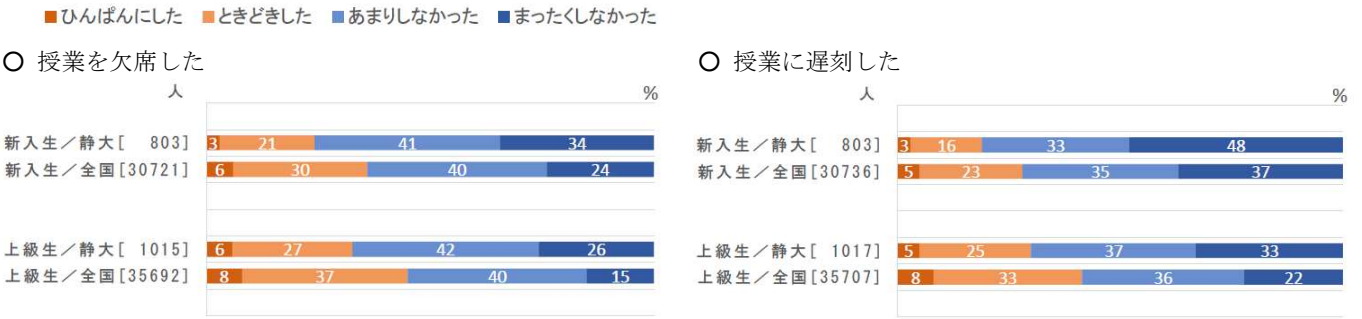
〔授業での経験〕



○ 授業の進め方に学生の意見が取り入れられる
○ TA や SA などの授業補助者から補助を受ける

・本学は全国と比べて「授業の進め方に学生の意見が取り入れられる」と回答した学生が多い傾向が窺えます。
・TA 等による授業補助を受けた回答は本学の理系学部で特に多く、全学でも全国平均をかなり上回る結果となっています。

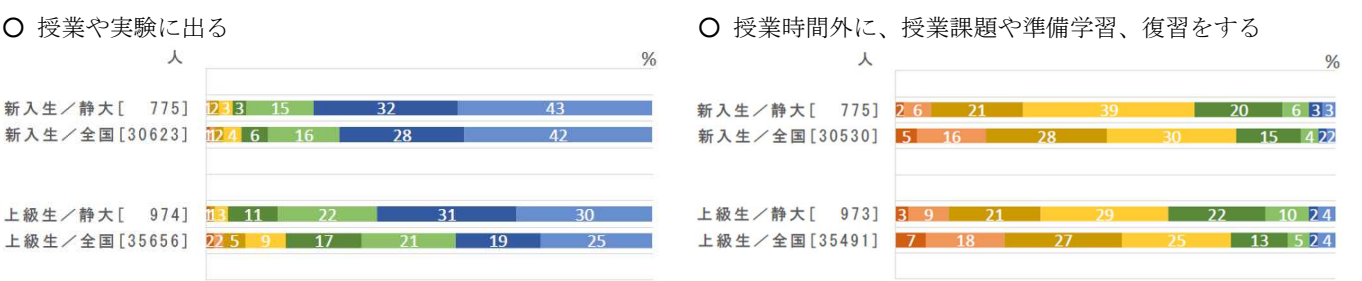
〔学習の経験〕



○ 授業を欠席した
○ 授業に遅刻した

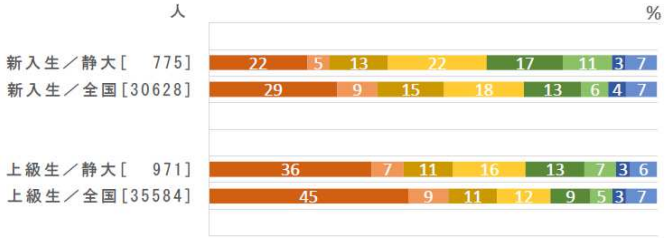
・本学は全国と比べて授業の欠席や遅刻が少なく、まじめに授業に取り組んでいる学生が多いことが窺えます。

〔一週間の活動時間〕



○ 授業や実験に出る
○ 授業時間外に、授業課題や準備学習、復習をする

○ 部活動や同好会に参加する

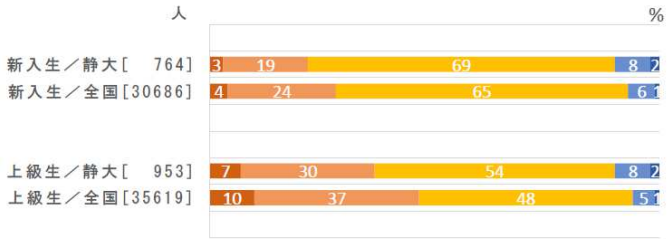


・本学は全国と比べて、授業への出席、予習復習、部活動への参加時間が多い傾向が窺えます。通学時間が全国平均より短い部分を、有効に活用しているものと推測できます。

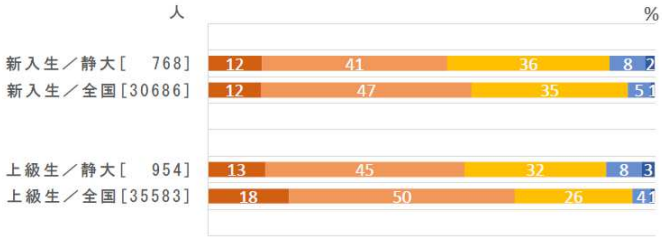
〔入学後の能力や知識の変化〕

■大きく増えた ■増えた ■変化なし ■減った ■大きく減った

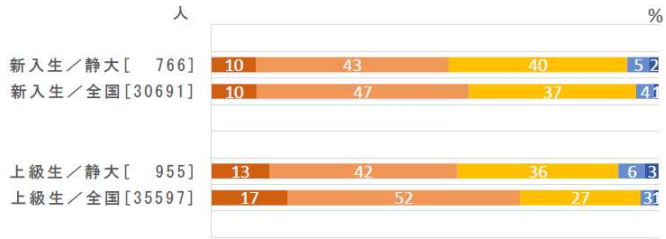
○ リーダーシップの能力



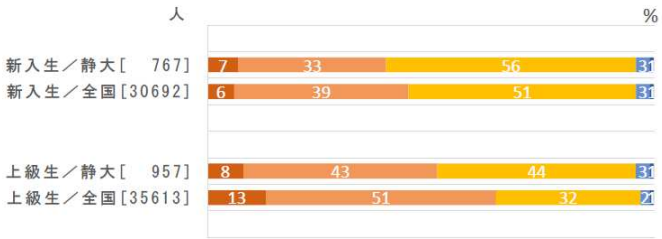
○ 人間関係を構築する能力



○ コミュニケーションの能力



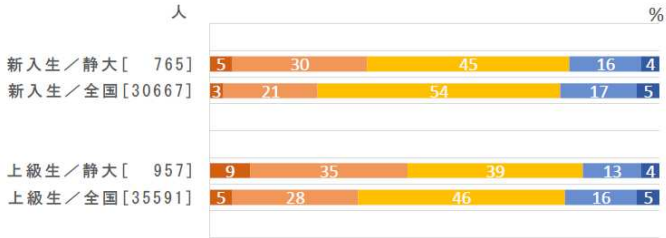
○ プレゼンテーションの能力



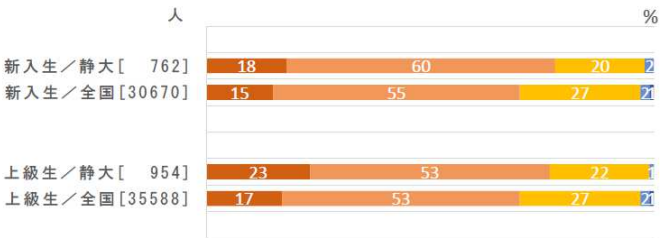
・本学は全国と比べて、リーダーシップ、人間関係、コミュニケーション、プレゼンテーションに関係する能力が増えたと実感する学生が少ない傾向が窺えます。授業内でこれらの要素を扱う頻度が少ないこと等が、理由として推測できます。

■大きく増えた ■増えた ■変化なし ■減った ■大きく減った

○ 数理的な能力



○ コンピュータの操作能力

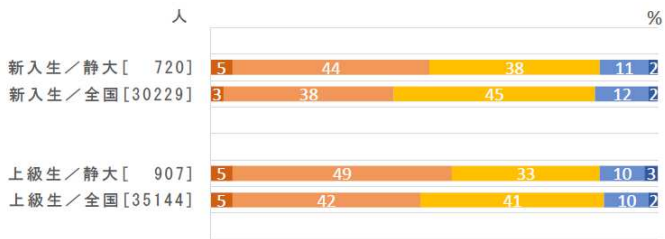


・本学は全国と比べて、数理的な能力、コンピュータの操作能力が増えたと実感する学生が多い傾向が窺えます。理系学部の学生定員が多いこと等が、理由として推測できます。

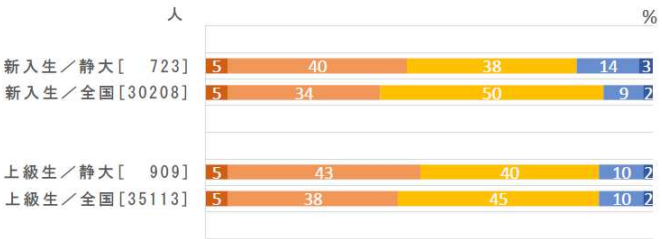
〔教育内容・環境の満足度〕

■とても満足 ■満足 ■どちらでもない ■不満 ■とても不満

○ 授業の全体的な質



○ １つの授業を履修する学生数

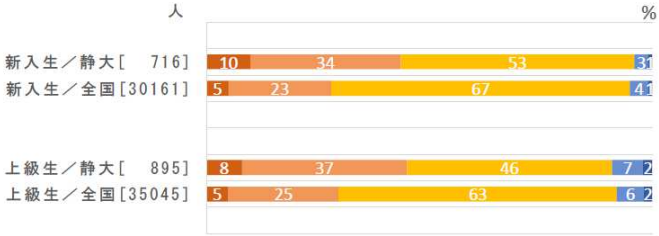


・本学は全国と比べて授業の全体的な質に対して満足と感じている学生が多いことが窺えます。
・１つの授業を履修する学生数も満足と答えた割合が全国平均より多いですが、新入生に限っては不満と答えた割合も多くなっている傾向が窺えます。

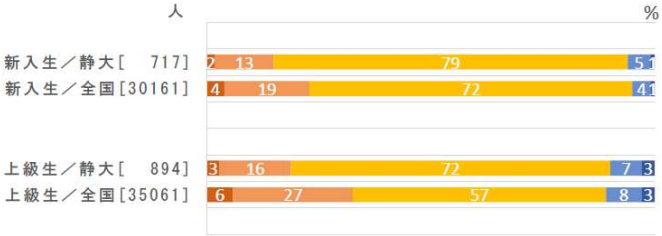
〔設備・学生支援制度の満足度〕

■とても満足　■満足　■どちらでもない　■不満　■とても不満

○ 健康保健サービス



○ キャリアカウンセリング



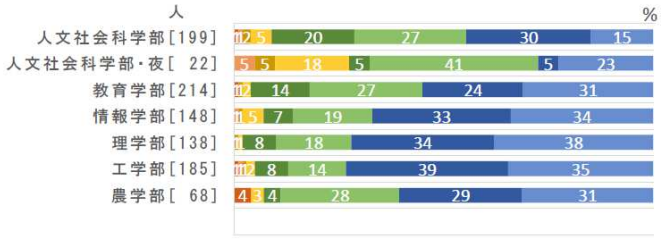
・本学は全国と比べて健康保健サービスに対して満足と感じている学生が多いことが窺えます。
・一方、キャリアカウンセリングに関しては、全国平均と比べて満足と感じている学生が少ない傾向が窺えます。

Ⅲ　学部４年生のレポート

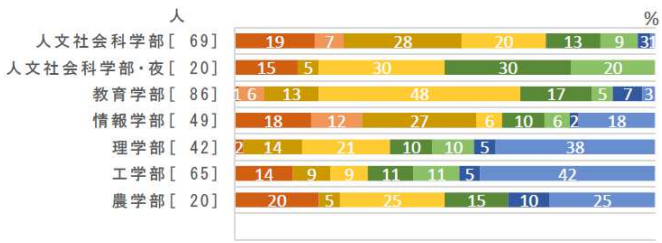
〔一週間の活動時間〕

○ 授業や実験に出る

■全然ない　■1時間未満　■1～2時間　■3～5時間　■6～10時間　■11～15時間　■16～20時間　■20時間以上



２・３年生



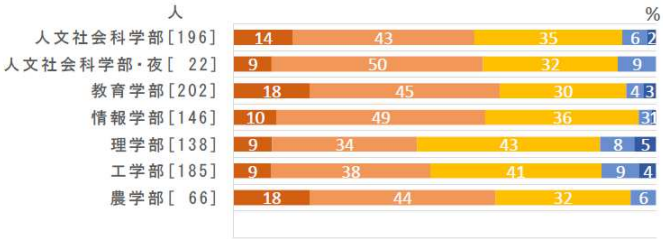
４年生

・４年生になるといずれの学部も授業や実験に出る時間が減少し、特に人文社会科学部では顕著に減っています。
・理系学部では 20 時間以上の学生が一定割合いる反面、情報学部や農学部では「全然ない」と回答した学生も２割程おり、同じ学部内でもばらつきがあることが分かります。

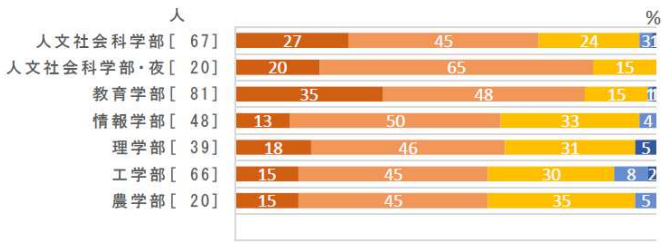
〔入学後の能力や知識の変化〕

■大きく増えた　■増えた　■変化なし　■減った　■大きく減った

○ コミュニケーションの能力

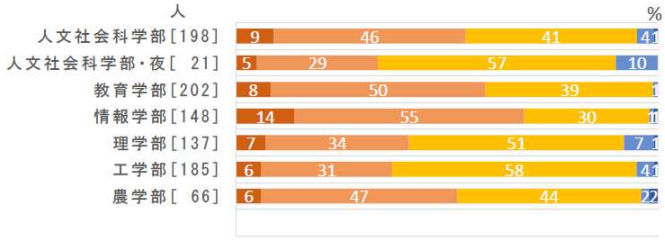


２・３年生

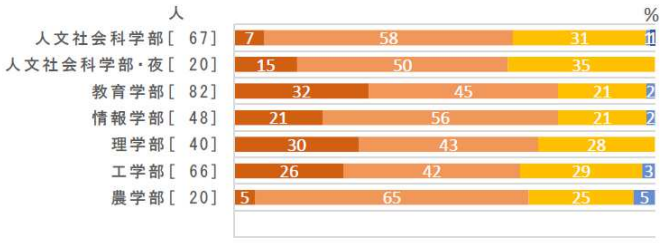


４年生

○ プレゼンテーションの能力



２・３年生

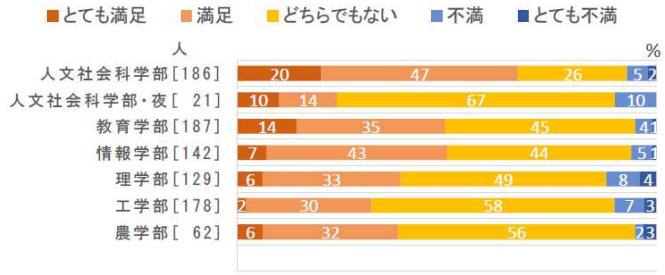


４年生

・コミュニケーション、プレゼンテーションに関係する能力は、２・３年生のグループでは全国平均より増えたと感じる学生が少なめでしたが、４年生になると大きく増加していることが分かります。

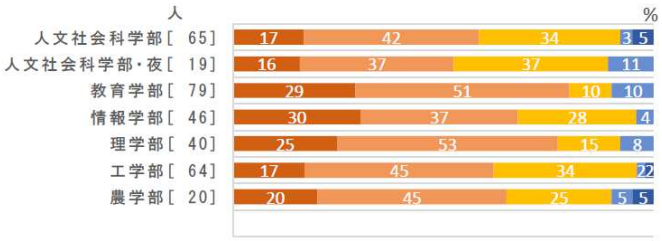
〔教育内容・環境の満足度〕

○ ２・３年生を対象としたゼミ（演習）などの教育内容



２・３年生

○ ４年生を対象としたゼミ（演習）などの教育内容

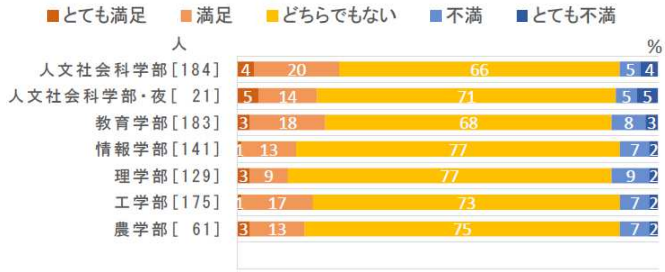


４年生

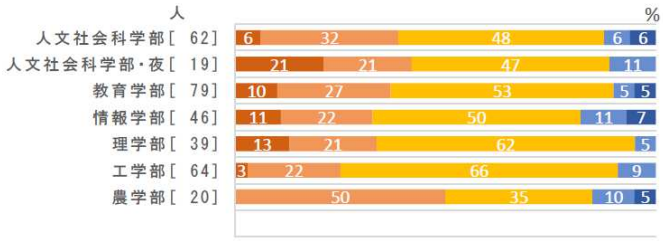
・各年生を対象としたゼミなどの教育内容では、２・３年生と比較して４年生では満足と感じた学生が大きく増加しています。特に理学部の増加幅が大きいことが窺えます。

〔設備・学生支援制度の満足度〕

○ キャリアカウンセリング



２・３年生

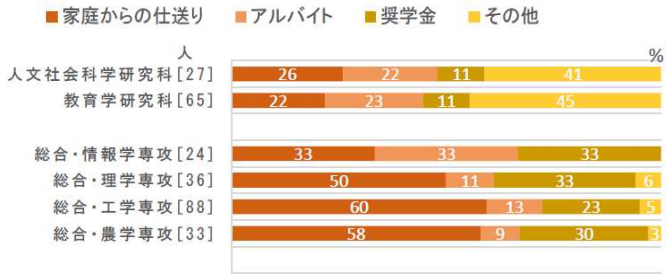


４年生

・キャリアカウンセリングの満足度は、２・３年生のグループでは全国平均より低い傾向が見られましたが、４年生になるといずれの学部でも大きく増加していることが分かります。
・一方、不満と感じる割合についても、学部によっては増加している場合があることが窺えます。

Ⅳ　修士学生のレポート

〔主な収入源〕

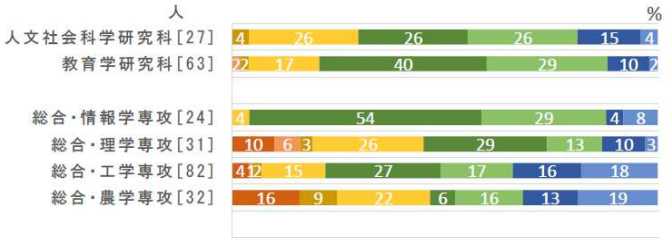


・理系研究科では奨学金を主な収入源とする学生も多いですが、家庭からの仕送りが最も多くなっています。
・人文社会科学研究科と教育学研究科では、社会人学生の比率が多く「その他」と回答した学生が多くなっています。

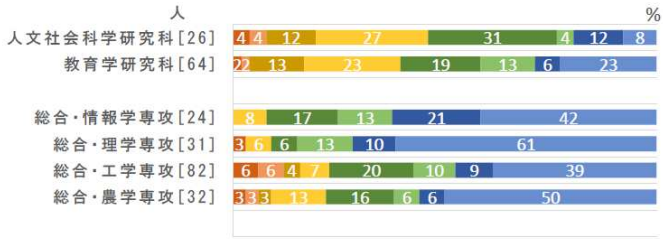
〔一週間の活動時間〕

■全然ない ■1時間未満 ■1～2時間 ■3～5時間 ■6～10時間 ■11～15時間 ■16～20時間 ■20時間以上

○ 授業に出る



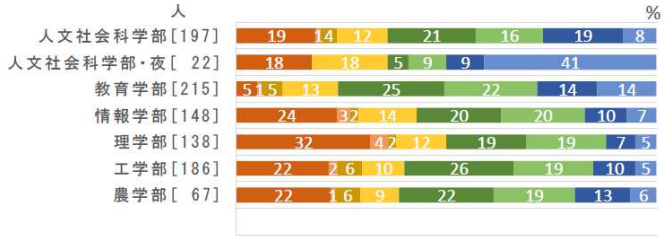
○ 授業時間外に、研究活動をする



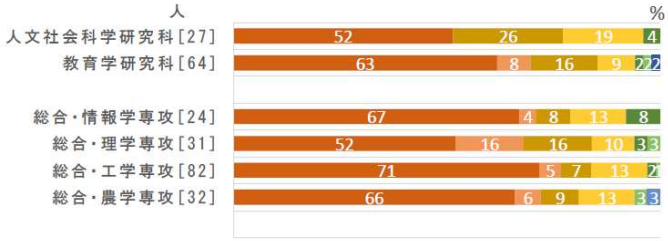
・特に理系研究科において、授業に出る時間よりも授業時間外の研究活動の方が顕著に長くなっていることが窺えます。

○ 大学外でアルバイトや仕事をする

■全然ない ■1時間未満 ■1～2時間 ■3～5時間 ■6～10時間 ■11～15時間 ■16～20時間 ■20時間以上



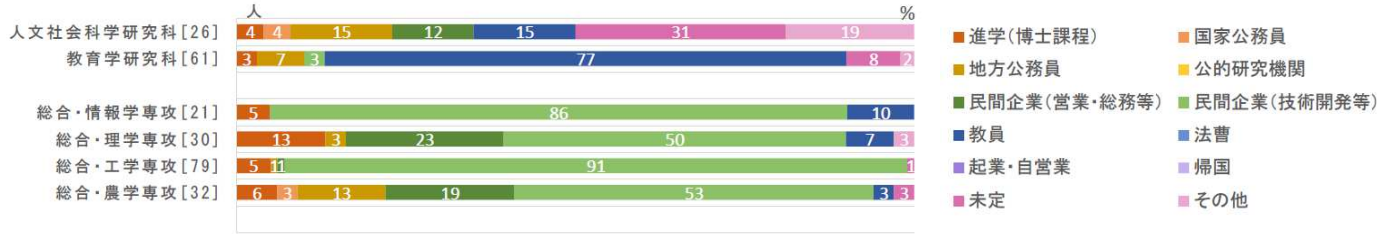
学部２・３年生



修士学生

・学部２・３年生と比較してみても、修士学生は大学外でアルバイト等をほとんどしていないことが窺えます。
・修士学生は、アルバイト等以外の収入で学費と生活費をまかなっていることが、活動時間からも観察できます。

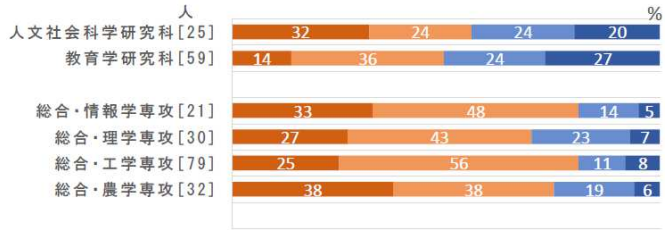
〔修了後の希望進路〕



・教育学研究科では教員、理系研究科では民間企業（技術開発等）が多く、研究科の特色を生かした職種への希望が多い傾向が窺えます。人文社会科学研究科では特定の職種への集中はなく、未定の回答も多くなっています。
・理系研究科でも特に情報学専攻と工学専攻において、技術開発系の職種への希望が強いことが窺えます。

〔就職・進学についての不安〕

■強くある ■ある ■あまりない ■全くない



・就職・進学について、理系研究科の方が不安と感じる学生が多い傾向が窺えます。